

学校における児童生徒数減少に伴う課題（例）

No.	項 目	児童生徒数が大きく減少した場合に想定される影響
1	学校運営	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 教室や施設に余裕がある ◦ 落ち着いた学校運営が可能 ◦ 教職員の共通理解が図りやすい
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学年1学級ではクラス替え不可能（9年間できない場合も）、学級間で切磋琢磨できる教育活動ができない ◦ 教員数が減り個々の教員の負担増 ◦ 人事により学校運営が左右される ◦ 多様な個性・性格・専門性・能力・指導力をもつ教職員を性別・年齢層別にバランスよく配置できない ◦ 教員の出張や研修参加が難しくなる ◦ 家庭数の減少によりPTA活動に支障が生じる
2	学級運営	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 少人数により一人ひとりに目が行き届いた指導が可能 ◦ 個々の能力や適性を伸ばしやすい ◦ 児童生徒個々の活動機会を設定しやすい
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学年運営に関する業務の負担大（学年1学級等）、子どもとふれ合う時間の減少 ◦ 男女比の偏りが生じやすい
3	学習活動 主体的・対話的・深い学び 確かな学力	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「主体的・対話的・深い学び」は、少人数でも可能 ◦ 子ども一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな指導が可能
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 集団での学び・活動が制限される ◦ 班活動やグループ活動に制約 ◦ 協働的な学習に制限 ◦ 多様な学習形態が困難 ◦ 集団スポーツ等 ◦ 協働的・双方向型の授業が制限される（言語活動の充実・グループ活動・ICT活用等） ◦ 児童生徒が切磋琢磨する環境が作りにくい ◦ 多様な考え方、物の見方、表現の仕方に触れることが困難 ◦ 多様な人間関係を構築しにくい ◦ 教員の指導技術の差が顕在化する
4	教科指導	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 個に応じた学習を進めやすい ◦ 一人ひとりに関わられる時間が多い
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科数に応じた教員配置が困難（中学校 教科免許） ◦ 教科に関する研修ができない（同じ教科担当教員がいない） ◦ 複数学年の教材準備・授業準備・成績処理等（負担増） ◦ 専門性を十分発揮できない場合もある ◦ 集団による多様な学びや体験活動の実施が難しい
5	人間関係 (友だち関係)	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 少人数により人間関係が掌握しやすい
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 児童生徒の人間関係が固定化（クラス替えができない場合） ◦ 子どもへの評価が固定しやすい ◦ 一部の子どもの問題行動により学級全体が大きく影響を受ける ◦ 男女の人数バランスに偏りが生じる場合がある
6	生活指導	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 子ども一人ひとりに目の行き届いた指導が可能（子どもに係る情報共有が図りやすい） ◦ 少人数学級は、欠席者率の低下に繋がるエビデンスあり（H24.8.28文部科学省検証会議）
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 子ども人間関係や、子どもと教員との人間関係に配慮した学級編制が不可能（学年複数学級の場合） ◦ 教員による、多様な子どもの見とりや評価が困難
7	集団生活	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 全校生の一体感が深まりやすい
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 球技や音楽科（合奏や合唱）等、集団活動の実施に制限 ◦ 人間関係形成力の育成が困難
8	部活動・ クラブ活動	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 設置可能な部活・クラブ数に制限（合同部活動の増加、廃部・休部の増加）
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 練習や対外試合に支障 ◦ 指導者確保が困難（教員数減）…地域団体・社会体育へ移行される可能性有 ◦ 生徒の興味や適性に合う部活動の選択肢が準備できない
9	学校行事運営	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 多くの児童生徒が学校行事のリーダー等になれる
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 運動会（体育大会）・文化祭・音楽会等の集団活動・行事の運営が困難 ◦ 5、6年複式学級担任は、自然学校や修学旅行等大きな行事の準備を1人で対応することとなる
10	登下校	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 個別対応が可能、迅速な対応が可能
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 集団登校等、安全面（登下校・防犯・防災等）への対応が困難
11	安全・ 緊急時対応	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 個別対応が可能、迅速な対応が可能
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 校外学習等、児童生徒引率業務への教員充当が困難
12	教員負担・ 保護者負担	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 教職員の意思疎通が図りやすい
		 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 複数学年分・複数教科分の教材研究、指導準備等が求められる（教員負担増） ◦ 複数の分掌を担当しなければならない（教員負担増） ◦ 少ない教員数では、子どもを多面的に評価しにくくなる ◦ PTA活動への負担増（保護者・教員負担増）